



丹原 史晶さん

子どものアトリエ七星主宰  
昭和49年8月生まれ・岡山出身・2児の父親  
保育士資格・色彩コーディネーター2級取得、  
(株)ハート&カラー認定チャイルドアートインストラクター  
ART&THERAPY 色彩心理協会実践会員

# 集中したり、気持ち悪く描いたり、黒色は、子どもにも馴染み深い色です。

**黒色で細かく描いたり  
黒色をたくさん使うときは、  
子どもが集中力を  
高めているときです。**

「子どもが黒ばかり使うのですが、何かあるのでしょうか?」「黒って本当に悪い色なんですか?」  
黒色ばかりを使うお子さんのことと、こんな質問をよく受けます。良い色は?と問うと、さまざまなお答えがありますが、悪い色は?と問うと100%に近い確率で、黒色という答えが返ってきます。それだけ「黒色は悪い色」という先入観が浸透しているようです。  
しかし、黒色はそんなに悪者では

ありません。  
色は光です。人間の眼は、モノに当たる太陽や照明の光を色として認識しています。黒色は光をすべて吸収するため、人間の眼には黒く見えます。また、黒色は眼に光が届かないため、まぶしくありません。  
それに対して、黒以外の無彩色や有彩色のすべては、光の量の多少はありますが、眼に光を届け、眼に刺激を与えているのです。  
新聞や本などの活字が黒色だと、読むのが楽だし集中できます。しかし、その活字が赤色やピンク色、黄色だと、とても無理ですね。  
このように色と集中力は、人間の眼の機能と深く関わっているのです。

ですから私はまず、「黒色は、子どもにとって馴染み深く、集中できる色なんですよ。どんどん使わせてあげてくださいね」と答えます。黒色を使う子どもは、とても集中力があります。また、集中して創作しているときは、色味のないことが多く見られます。木や段ボールなどの素材の色そのままだったり、黒色を選んで創作します。自分が集中したいとき、黒を選んだら良いことを子どもはよく知っています。私のアトリエでは、黒色を使って細かく絵を描き込んだり、迷路や文字を描いたり、黒い折り紙で切り絵をしたりする様子がよく見られます。今日は集中してや〜

を塗り込んだりしました。そして最後に、いろいろな色を塗った画用紙の上を、黒色の絵の具で全面を覆うように塗ってしまっただけです。  
このような表現を初めて目にしたのは3年前で、その後同じような機会が4度ほどありました。  
この子どもたちに共通していたのは、「最近じんましんや高熱で一週間ほど学校を休んだ。友達のことを悩んでいる。学校に行きたくない」ということが多くなってきたなど、大きな身体的、精神的ストレスを感じていることでした。  
一見すると、3歳くらいに退行した表現と思われるかもしれませんが、決してそうではありません。

「もう大丈夫!」と自分に言い聞かせているときもあります。  
黒色を使って  
「もう大丈夫!」と自分に言い聞かせているときもあります。  
ある日アトリエに来た子どもが、いろいろな色を混ぜ合わせるように描いたり、赤色だけで画用紙全面

子どもたちはいろいろな色で、表現できないモヤモヤとした気持ちを思いっきり表現したのだと思います。そして、言葉にできない気持ちをリセットするために、黒色を最後に塗ったのだと思います。「もう大丈夫!」と、自分に言い聞かせているのかもしれない。  
黒色を塗った後の子どもは、何とも言えないスッパリした表情を見せてくれます。子どもは、色を十分に活用し、心のバランスを取る手段を知っているのだと思います。

そういう場面で、黒色が重要な役割を果たしていると言えるのです。

## 子どものアトリエ七星・アウトライン

クラス 月2回第1・3週クラスと第2・4週クラス  
(※)は2歳児が対象

水曜日	金曜日	土曜日
10:00~70分(※)	10:00~70分(※)	10:00~90分
13:00~90分	14:30~70分	13:00~90分
16:30~90分	16:30~90分	16:00~90分
18:30~90分	18:30~90分	

月謝 土曜日・月2回/5000円、  
水曜日もしくは金曜日・月2回/4500円  
水曜日もしくは金曜日・月2回(※)/4000円  
問い合わせ TEL 086-284-8402 岡山市榴津958-4

1月と2月はアトリエは休みです。